

### 第3回 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 議事要旨

平成22年1月29日(金) 18:00~20:00

中央合同庁舎3号館 4階特別会議室

#### 【出席者】

中川座長、三本木委員、鈴木委員、田中委員、辻本委員、道上委員、森田委員、山田委員、前原大臣、馬淵副大臣、辻元副大臣、三日月政務官、中原政策官、佐藤河川局長

#### 【委員以外からのヒアリング】

- 宮村忠氏より、利根川を例として治水と水防の構図に関して、
- ・利根川にある中条堤の特徴、歴史、経過や上下流対立の問題
  - ・近年の洪水における利根川での取り組みとして、堤防の漏水に対する水防の取り組みと、住居での対応としての水塚等の特徴や構造等について発表があった。
- その後、
- ・水防組織の維持
  - ・水防活動の体験の集約
- 等について委員との間で質疑応答があった。

#### 【今後の討議に向けての主な論点】

- 委員がそれぞれの専門分野の観点等から作成した論点メモをもとに、座長が作成した「今後の討議に向けての主な論点」について討議が行われた。
- 主な意見は以下のとおり。
- ・検討の対象に関して、流域の規模や重要度などの特性に応じて議論してはどうか。
  - ・対策としてすぐにできるものは、すぐにでも取り組むという提案があってもよいのではないか。そのようなものは、今後の検証の論点からはずしてもよいのではないか。
  - ・技術的信頼性や実現可能性に差がある個々の治水対策を並べて評価する方策の確立を考えるべきではないか。
  - ・流域全体のソフト対策も含めて、時間的、財政的な見地を入れながら検証すべきではないか。
  - ・ダム事業を中止した場合に、河川局だけでなく、国土交通省の関係部局や関係省庁と連携して対応することが重要ではないか。

- ・治水対策を議論するためには住民合意、社会合意を図っていく必要がある。そのためには、技術的な専門用語をわかりやすく表現するとともに、どのくらいの雨が降り、どこの地域にどのような被害が発生するのかということをできる限りわかりやすく示していく必要があるのではないか。
- ・これまで提案されてきている治水対策が、十分に進んでこなかった理由などについて、検証が必要ではないか。

【その他】

○今後のスケジュールについて、次回は「委員からの発表」を行うこととなった。